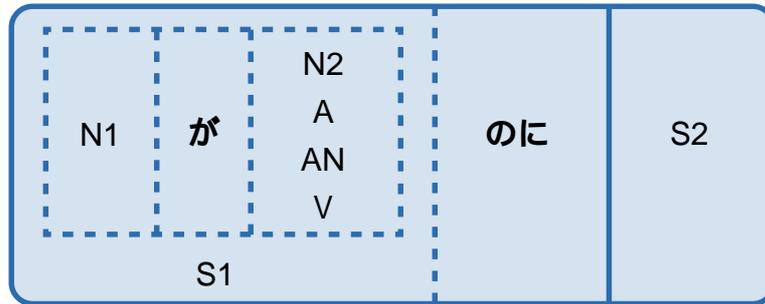


助 - 32

のに



N2 / A / AN / V : 常体形。ただし、「Nだ Nな」「ANだ ANな」

基 本

例 文

- ① 梅雨^{つゆ}なのに、雨^{あめ}がぜんぜん降^ふりません。
- ② 田中^{たなか}さんは家^{いえ}が近^{ちか}いのに、よく遅^ち刻^{こく}します。
- ③ 波^{なみ}が高^{たか}くて危^き険^{けん}なのに、サーフィン^{サーフィン}をしてい^{して}る人^{ひと}がいます。
- ④ 風邪^{かぜ}で熱^{ねつ}がある^あるのに、中山^{なかやま}さんは授^{じゆ}業^{ぎよう}を休^{やす}みません。
- ⑤ 一^{いっ}生^{しょう}懸^{けん}命^{めい}勉^{べん}強^{きやう}した^{した}のに、試^し験^{けん}に落^おちてしま^{しま}いました。
- ⑥ A : 田中^{たなか}さんは？
B : もう帰^{かえ}りました。
A : いっしょに帰^{かえ}ろうと思^{おも}ったのに。
- ⑦ A : き^まのう、ず^まっと待^{まち}っていたのに、
どうして来^こなかつたんですか。
B : ごめ^きんなさい。急^{きゆう}にお腹^{なか}が
痛^{いた}くなつてしま^{しま}ったんです。
- ⑧ あ^たとで食^おべようと思^{おも}って冷^{れい}蔵^{ぞう}庫^こに
入^いれておいた^{いた}のに、だ^たれが食^たべた
んですか。



例文 ⑧

- A. 「S1 のに S2」で、S2 が S1 から当然予測される状態、結果とは食い違っていることを表す。
 (例文①～⑧)
- B. N1 が話し手の場合、不満、残念だという気持ちを表す。(例文⑤～⑧)
- C. S2 で表されることがわかっている場合には、省略されることがある。(例文⑥)
- D. 質問文は、「S1 のに、S2 んですか」の形になる。(例文⑦⑧)

先生へ

S1 と S2 は、事実(すでに起こったことや現在の状態)、または話し手の判断でなければならない。

S2 に、以下のような意志的な表現は使えない。

依頼：Vてください/Vてくださいませんか など

意志：Vよう/Vようとおもいます など

願望：Vたいです など

誘い：Vましょう/Vませんか など

禁止：Vてはいけません など

「のに」と「ても」「が(接続)」との違い。

	S1 のに S2	S1 ても S2	S1 が S2
S1 が話し手の仮定したこと	×		×
S1 が実際にあったこと、したこと			
話し手の気持ち	残念、不満、 期待はずれ	-	-
依頼、意志、願望、誘いなどの文末表現	×		

【関連項目】

- 活-05 常体形
 文-58 ても
 助-16 が(接続)

【「れんしゅう編」の練習】

- 19-4 手紙を出したのに
 19-7 ホームステイの報告